HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	北海道における中小企業家同友会の教育(12)
著者	竹田，正直；TAKEDA，Masanao
引用	開発論集(106)：51-73
発行日	2020-09-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

開発論集　第106号　51-73（2020年９月）

北海道における中小企業家同友会の教育⑫

竹　田　正　直*

はじめに

新型コロナウィルス（COVID-19）の感染は，2020（令和２）年１月16日に日本でも感染者がでて，その後拡大し，国内感染者合計36,455人（前日比＋1,570人，以下同じ），入院・療養中8,408人（＋562人），死者1,013人（＋6人），2020年７月31日午後11時10分現在である。その内，北海道は感染者合計1,428人（＋15人），治療中84人，死者103人である。世界的には，感染者合計17,308,434人（前日比＋269,274人），死者673,431人（＋6,213人），2020年７月31日午後５時現在である。

有効なワクチンも治療薬も，開発途上であるが，「コロナとともに生きる」として「新しい生活様式」が提起されて，「感染予防」と「社会経済活動」が同時に追求されている。そのような中で，第２波，第３波が懸念される。国内新感染1,570人は最多である。

中小企業家同友会全国協議会（略称，中同協）の広浜泰久会長は，新型コロナウィルス感染症問題に関し，５月19日に，「長期化に備え，視座高く変化に対応しよう」として，次の４点を提起した。(注１)

第１に，「事業の継続に全力を尽くそう」。①支援施策も活用し，徹底した資金手当をし，②社員の雇用と健康を守り，③社内での正確な現状認識の共有と対策を実践し，④会員間ネットワークを活用・強化するとともに，⑤一人で悩まず同友会に相談し知恵を出し合いましょう。

第２に，「経済・社会の変化に備えよう」。感染症は，事業のありかたに変化・転機をもたらすので，この転機を新たなビジネスチャンスにつなげ，自社の強みを再確認しつつ，事業領域を抜本的に見直し，連携の強化・促進など，企業変革の機会にしましょう。

第３に，「活動する同友会の姿を会内外に示そう」。事業・社会活動の制限が地域ごとにちがうので同友会活動も各地域の条件に合致させ，会員一人ひとりに声をかけ，企業と雇用・地域を守る取り組みを広げ，事業活動の再興・強化を支えることにより，中小企業憲章にあるように「社会の主役」として役割を果たしましょう。

第４に，「一人ひとりが生き生きと輝く社会にしよう」。市民一人ひとりがかけがいのない存在であり，社会的に支えあわねばなりません。私たちは今，地域に生きる経営者としての姿勢と存在意義が問われています。自社における「人を生かす経営」を貫き通し。地域の絆を紡ぐ

*（たけだ　まさなお）北海学園大学開発研究所特別研究員，（北海道大学名誉教授）

リーダーとして，その考え方を社会に広めましょう。

広浜会長談話が1面に掲載された『中小企業家しんぶん』，第1510号（2020年6月5日）には，7月14日（火）に，WEB会議（Zoom使用）で開催する「中同協第52回定時総会議案」が掲載されている。新型コロナウィルス（以下，新型コロナ）の感染拡大がなければ，この総会は札幌市内のホテルでの開催予定で，北海道同友会は昨年来，万全の準備をしてきていた全国総会である。(注2)

第1章の「2019年度をふりかえって」の第4節「同友会づくり」では，昨年度は，5万名会員達成をめざして活動し，2020年4月1日現在，全国47,467名で期首比445名の純増を実現し11年連続で最高会勢を更新した。北海道同友会は，昨年11月22日の創立50周年直前に目標の6,000名を達成したが，その後減少している。それでも純増の30同友会のなかで106名の純増で第1位，2位兵庫71名，鹿児島59名，福岡58名と続く。加盟実数の第1位も北海道で5,921名，愛知4,274名，広島2,687名，東京2,344名，福岡2,282名，大阪2,270名と続く。北海道同友会の会勢の高さが如何ばかりかが分かる。

第2章「中小企業をめぐる情勢」の第1節，世界経済では，新型コロナにより，国際通貨基金（IMF）は2020年の世界成長率はマイナス3.0%と予測（2020年4月14日），国連の世界経済成長予測（2020年5月13日）も前年比マイナス3.2%で，感染の第2波がきた場合にはマイナス4.9%まで落ち込む。世界貿易機構（WTO）は，貿易量は前年比最大32%減少と予測（2020年4月8日），後半回復の楽観予測でもリーマンショック時の13%という。第2節，日本経済と地域経済では，日本はすでに新型コロナ前から低成長になっていた。2019年10～12月国内総生産（GDP）前期比マイナス7.3%（年率換算）2020年1～3月もマイナス3.4%（同）と連続マイナスであった。なお，国際通貨基金（IMF）は2020年の成長率はマイナス5.2%と予測した。

中同協の会員への3月調査でもマイナス影響が「出ている」と「懸念される」が88%，前年同月比売り上げ減少が53%である。1～3月の同友会景況調査でも，業況判断，業況水準，売上高，経常利益の主要指標すべてで大幅に下落し，「コロナ不況はまだ入口で底は見えず，中小企業は存亡の危機にたっています」と述べている。

第3章「本年度の課題と活動方針，今こそ同友会で知恵を出し合い実践し難局を乗り切ろう！」では，第1節，企業づくり～新型コロナに負けない「全社一丸」の経営，第2節で同友会づくり～感染拡大の影響長期化の想定と次代を展望した同友会づくり，第3節の経営改善と地域づくり，をあげ，全体として中小企業を経済の主役とする中同協にふさわしい説得的な提案と言える。

しかし，社員教育に関しては若干気になる提案がある。第1節企業づくり～新型コロナに負けない「全社一丸」の経営，として7つのことを訴えており，社員教育にとって特に重要なのは，⑸「採用と教育，万能型BCP（事業継続計画）策定のチャンスととらえましょう」，として，「業務の減少によってできる余剰時間を生かし，雇用調整助成金なども活用して，社内研

修会を開催し，改めて創業の精神，経営理念の重要性などを全社的に学ぶ場をつくりましょう。」と呼びかけている点である。

即ち，社員教育を「業務の減少」による「余剰時間を生かし」，「雇用調整助成金なども活用し」という位置づけである。北海道同友会は，このような位置づけではなく社員教育を本業として，基本予算として位置づけてきたからこそ全国最高の会勢となっているのである。この中同協総会議案の第1章，第2節⑸で，「『共に育つ』環境づくりを広げ，実践する社員教育活動を」として，昨年，岡山での社員教育活動全国研修・交流会（36同友会208名参加）で，「同友会の社員教育活動の原点を振り返ることをテーマに学び合いました。その中で，同友会の社員教育の根幹は『人間とは何かを問うこと』であり，その上で一人ひとりの社員の持ち味を生かす企業づくりを実践していくことが大切である」と確認しましたと指摘されているだけに，余剰時間や助成金があったら実施する程度のものではない。

北海道同友会創立51年目の第68期同友会大学は，2020年1月20日（月）から予定通り，入学式から始まり，第8講，2月27日（木）まで実施したが，新型コロナのため中断し，6月26日（金）の第9講から再開している。4カ月間の中断であるが，再開は素早かった。

本号では，1990年に実施された同友会大学第19期と第20期の事例分析によって「共育」概念の構造仮説を検証したい。

第1章　北海道中小企業家同友会第19期同友会大学

⑴　第19期同友会大学の日程と講義概要

第19期同友会大学は，1990年1月12日（金）午後6～9時，札幌市中央区北4条西16丁目第一ビル，同友会会議室を会場に開校式を行い，5月14日（月）のりんゆうホールでの卒業式まで第一ビル会議室を教室にして30講義が行われた。この頃はまだ，宿泊を伴う移動見学講義や，道外講師による公開講義はなかったので，すべて教室で開催された。(注3)

西村信同友会大学学長（社員教育委員長，㈱ニシムラ代表取締役副社長）が開校挨拶を述べて歓迎し，講師や教育委員の紹介と挨拶があり，新入生59名を代表して決意表明が行われた。決意表明は，㈱長井鉄工所長井正人社長が行った。「多くの人に支えられてこの場にいる事を思うとき，私達は大きな幸福と自分自身の燃える心を感ぜずにはいられません。私たちは決意します。自分自身の人間的成長と家庭，企業，社会，自分を支えてくれている人々の幸福を，この第19期同友会大学を大きなステップとして追求してゆきます。……ここに集まった59名の同期生との新しい出会いに対するよろこびです。私達同期生はこの新しい出会いを大切にし，共に成長するよろこびを分かちあいたい，そう強く思っています」。(注4)

単元の内容構成は18期と同じであるが，講義の順番は，「経営分析」が単元Ⅲとなり，「経営と法律」が単元Ⅳと代わっている。次の第20期は，また元の18期までとおなじになっているので，おそらく担当講師の日程上の問題であろう。結局，第19期の単元構成と講義順は，

資料１　北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 19 期）

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
開　校　式		
’90 １月12日㈮	◎学長あいさつ，教育委員の紹介，ガイダンス ◎班編成の発表，性格・職業興味検査	
単元Ⅰ　経　済　と　中　小　企　業		
１月17日㈬	◎戦後日本経済と中小企業 ～国際比較からみて～	北海道大学 教授　富森（ママ）　虔児氏
１月19日㈮	◎経済学とは何か ～経済学の歴史と現代～	札幌学院大学 教授　三好　宏一氏
１月22日㈪	◎激動の世界・政治と経済の焦点	北海道大学 教授　佐々木隆生氏
１月26日㈮	◎これからの中小企業の経営戦略	北海道大学 教授　眞野　　脩氏
１月29日㈪	◎現代の情勢をどう理解するか ～グループ研究(1)～	札幌大学 教授　森　　杲氏
単元Ⅱ　北　海　道　論		
２月２日㈮	◎北方少数民族の生き方で考える ～もうひとつの北海道史～	日本民族学会 会員　田中　　了氏
２月５日㈪	◎北海道の近代史から学ぶ	武蔵女子短大 教授　永井　秀夫氏
２月７日㈬	◎北海道経済の過去・現在・未来 ～北海道経済発展の原動力は何か～	北海道大学 教授　山田　定市氏
２月13日㈫	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教授　小笠原　克氏
単元Ⅲ　経　営　分　析		
２月16日㈮	◎経営分析の ABC	税理士 芥川満砂子氏
２月19日㈪	◎経営分析のすすめ方	税理士 藤田　時人氏
２月23日㈮	◎経営分析の事例研究(1)	税理士 池戸　俊幸氏
２月26日㈪	◎経営分析の事例研究(2) ～グループ研究(2)～	税理士 池戸　俊幸氏
単元Ⅳ　経　営　と　法　律		
３月２日㈮	◎日本国憲法と私たちの課題	弁護士 郷路　征記氏
３月５日㈪	◎民・商法の基礎知識	弁護士 阿部　勝人氏

講義時間；18：00～21：00

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
3月9日㈮	◎債権の管理と回収⑴	弁護士 向井　清利氏
3月12日㈪	◎債権の管理と回収⑵	弁護士 向井　清利氏
単元Ⅴ　科　学　技　術　論		
3月16日㈮	◎先端技術の功罪	北海道大学 助教授　吉田　文和氏
3月19日㈪	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 助教授　山本　強氏
3月23日㈮	◎科学と人間 ～自然科学の発展と人間生活～	札幌学院大学 教授　田中　一氏
3月26日㈪	◎科学技術の発展と人類の課題 ～グループ研究⑶～	北海道大学 助教授　赤石　義紀氏
3月28日㈬	◎バイオテクノロジーと北海道の未来	北海道東海大学 教授　西村　弘行氏
単元Ⅵ　人　間　と　教　育		
4月2日㈪	◎幹部に求められる現代のマナー	北海道同友会 事務局長　西谷　博明氏
4月6日㈮	◎教育の歴史と本質	北海道大学 教授　竹田　正直氏
4月9日㈪	◎日本の教育と人間の発達 ～現代青年の特徴と成長の可能性～	北海道大学 教授　鈴木　秀一氏
4月13日㈮	◎“知恵”ある人間に育つために	北海道大学 非常勤講師　方波見雅夫氏
4月16日㈪	◎現代人の社会心理と組織の生かし方	北海学園大学 教授　後藤　啓一氏
4月20日㈮	◎社員と共に育ちあう企業づくり ～人間の誇りにかけて生きる～	㈱共同印刷 社長　木野口　功氏
総　括　講　義		
4月23日㈪	◎中小企業の未来と私たちの課題 ～同友会大学で何を学んだか（グループ討論）～	北海道同友会 専務理事　大久保尚孝氏

（肩書きは講義当時のものです）
※卒論の提出
※卒業式は5月14日㈪18：00～21：00

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第19期生記録集“未来を拓く”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1990年7月，4～5頁。

資料2

決 意 表 明

この同友会大学をこれからの自分自身の成長のきっかけにするか，卒業する事だけを目的とするか，自分次第です。

しかし，自分をこの場に出してくれた経営者，上司，部下，そして家族が熱い期待をもって見守ってくれています。

多くの人に支えられてこの場にいる事を思うとき，私達は大きな幸福と自分自身の燃える心を感ぜずにはいられません。

私達は決意します。自分自身の人間的な成長と家庭，企業，社会，自分を支えてくれている人々の幸福を，この第19期同友会大学を大きなステップとして追求してゆきます。

私達の目は輝いています。それは，貴重な時間をさいて下さる講師の諸先生より少しでも多くの事を学びたい，自分自身のものにしたい，という心の表われです。また，ここに集まった59名の同期生との新しい出会いに対するよろこびです。私達同期生はこの新しい出会いを大切にし，共に成長するよろこびを分かちあいたい，そう強く思っています。

最後になりましたが，私達を支えてくれている多くの人々に感謝し，これからお世話になる事務局の方々，講師の諸先生のご指導を心よりお願い申し上げ，決意の表明とさせていただきます。

1990年1月12日

同友会大学第19期生代表
株式会社長井鉄工所
長　井　正　人

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第19期生記録集“未来を拓く”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1990年7月，9頁。

単元Ⅰ，「経済と中小企業」，単元Ⅱ，「北海道論」，単元Ⅲ，「経営分析」，単元Ⅳ，「経営と法律」，単元Ⅴ，「科学技術論」，単元Ⅵ，「人間と教育」，「総括講義」，となっている。

単元Ⅰ，「経済と中小企業」の担当者5人は前回の第18期と同じ顔ぶれだが，テーマは全員が変化し，順番は第1と第5講義が入れ替わっている。

第19期の第1講義は，北大冨森虔児教授「戦後日本経済と中小企業～国際比較からみて～」である。前回第5講義では「日本経済の課題と展望～中小企業の立場からみた日本経済論～」から変えたものである。代わって第5講義は，北大から札幌大学へ転職した森杲教授の「現代の情勢をどう理解するか～グループ研究(1)～」である。前回の第1講義は「経済学をどう学ぶか～人間のくらしと経済学～」であった。他の3人の講義順は前回同様である。そのうち札幌学院大学三好宏一教授のテーマは大きく変わり，前回の「現代の情勢をどう理解するか～グループ研究(1)新聞の読み方～」から，今回は「経済学とは何か～経済学の歴史と現代～」となっている。テーマの変更は大きいものだが，同友会事務局との協議は当然おこなわれたはずだが，5人の担当者の相互間の統一性については疑義が残る。

単元Ⅱ，「北海道論」は，日本民族学会田中了会員，武蔵女子短大永井秀夫教授，北大山田

定市教授，藤女子大学小笠原克教授，のテーマは殆ど変化していない。講義順が前回第４講義の田中了会員が第１になり，以下順送りとなっている。山田定市教授のサブテーマが前回の「中小企業がひらく新しい可能性」が，今回は「北海道経済発展の原動力は何か」となって，より単元の「北海道論」を意識したサブテーマとなっている。

単元Ⅲ，「経営分析」は，今回のみ第Ⅲ単元になったものである。前回の「経営分析」単元と構成，担当者，テーマは殆ど変化はない。ひとつだけ，第２講義の担当者が前回の上村昭紀税理士から藤田時人税理士に交代しただけである。

単元Ⅳ，「経営と法律」は全員弁護士の郷路柾記氏，阿部勝人氏，向井清利氏である。郷路弁護士と向井弁護士は，テーマも講義順も不変あるが，第２講義が，担当者もテーマも代わっている。前回の伊藤誠一弁護士「『改正労働基準法』と中小企業」から，第19期は，阿部勝人弁護士で「民・商法の基礎知識」のテーマになっている。

単元Ⅴ，「科学技術論」は，若干の変化がある。テーマと担当が変わっていないのは，札幌学院大学田中一教授，北海道東海大西村弘行教授，北大山本強助教授，北大赤石義紀助教授である。北大吉田文和助教授は，テーマも「先端技術の功罪」と変え，前回の第５講義から第１講義になった。前回の第１講義の田中教授は第３講義になっている。吉田助教授の新しいテーマは興味ぶかいものであるが，第１講義に位置するなら，むしろ，前回の「技術革新と中小企業」がよりベターであったと思われる。

単元Ⅵ，「人間と教育」は，北海道同友会西谷博明事務局長，北大竹田正直教授，北大鈴木秀一教授，北海学園大学後藤啓一教授，㈱共同印刷木野口功社長，北海道大学非常勤講師方波見雅夫教授の担当は変わっていない。竹田教授が，前回の「教育とは何か～社会と教育の歴史～」を，今回はサブテーマなしの「教育の歴史と本質」に変更している。また，木野口社長が，前回テーマの「部下をどう教育するか⑵～目標必達の社風をつくりあげるために～」から，今回は「社員とともに育ちあう企業づくり～人間の誇りにかけて生きる～」に変えている。多分，前回は与えられたテーマであったが，今回は木野口社長の内発的テーマと感じられる。方波見教授，後藤教授と木野口社長の講義順が，前回からは入れ替わっている。他に前々回の㈱北海道邦楽邦舞協会平沢秀和事務局長が，北大鈴木秀一教授になり，テーマも「日本の教育と人間の発達～現代青年の特徴と成長の可能性～」に代わっている。

「総括講義」は，従前と同じく北海道同友会大久保尚孝専務理事の担当である。(注５)

⑵　第19期同友会大学の学びの背景と受講生・卒業生の特徴

受講生の59名は多い方である。受講生を送りだした企業数は45社であり，十数社が複数の受講生を送り出している。なお，今回はじめて同友会大学へ受講生を送り出した企業は22社である。また，札幌市以外からの通勤受講生が，石狩市，千歳市，岩見沢市（２名），江別市，苫小牧市（２名），岩内町，三笠市，上川町，倶知安町，恵庭市，と12名もの参加は初めてである。片道２～３時間かけて会場にくる受講生の熱意は大変なものである。上川町などは，９

時に終わってタクシー，汽車，車で自宅に着くのは「夜中の三時近く」とのことである。冬の北海道での夜間の車の運転は命懸けである。

1990年5月14日（月）午後6時からの卒業式では，この12名のうち成績もよく卒業した上川町からの小林正行氏（㈱りんゆう観光），倶知安町からの近藤均氏（㈱北栄），岩内町からの平澤一康氏（㈲ハミューレ岩内）に，同友会社員教育委員会から敢闘賞が贈られた。小林正行氏（㈱りんゆう観光）はこう述べている。「とにかく疲れました…。受講している時間より，同友会に通う時間の方が長く“学ぶ”ということがこれほど大変なものかということを痛感致しました。大学のある日は，午前中に会社に出勤し，午後より札幌に向かい，受講後また汽車にゆられて家に着くのは夜中の三時近くでありまして，その日はまた会社に出勤するというハードな4カ月間でした。二度と忘れられない経験で有りました。」(注6)

卒業率は，59名中，52名の卒業で，88.1％で19期中，第8位。レポートの平均は，63.3点で，同じく第8位。皆勤賞は，52名中，17名で皆勤率32.7％19期中第18位。

皆勤賞受賞の卒業生は，大塚正久氏（札通石油㈱課長），黒田勝弘氏（清水勧業㈱課長），桜井裕二氏（タナカ化学㈱係長），佐々木吉宣氏（ダイヤ冷暖工業㈱主任），澤本敏幸氏（㈱宅装サービス部長），菅原堅二氏（北洋造園㈱主任），杉村克司氏（丸本本間水産㈱係長），住吉治雄氏（㈱トークツ次長），高橋肇氏（白石機材㈱専務），中原弘之氏（ダイヤ冷暖工業㈱主任），名畑正博氏（華園電子㈱），長谷和博氏（東洋自動車工業㈱常務），林雅嗣氏（あけぼの住宅設備㈱），牧野弘孝氏（浅川通信㈱主任），政本多助氏（札通石油㈱課長），山本賢氏（㈱安本建具製作所主任），渡辺春治氏（㈱日本除雪機製作所係長）である。

第19期は最優秀賞も優等賞，努力賞もいなかったが，西谷博明事務局長によれば，「後半レポート提出が遅れなければ優等賞に手が届く可能性のあった方が一名，卒論がもう少し良ければ努力賞になった方が三名いらっしゃいました」とのことである。(注7)

第19期は女性受講生が極めて少ないが，その一人，堤千春氏（泰伸倉庫㈲）は，卒業後，受講前後の自分の気持ちの変化を次のように述べている。「私は20歳のOL，肩書き無しの一事務員。大学入校にあたっては一喜一憂だった。修了できるだろうか？　講義は難しそうで更にそのレポートの提出という付録つき！　でも内容に興味があり，ダメで元元やってみることにした。果たして予想は裏切られず!?　先生の目の前の席でノートをとり，締切に追われるようにレポートを提出…が，それを乗り越えられたのも，講師の方々の魅力，内容の豊かさ，同友会事務局の方々の対応，自分を送り出してくれた会社への報恩だったと思う。……大学では，自分の位置を確かめる羅針盤を与えられた思いだ。新聞を広げると以前より興味が募り，親しみを感ずる。物事への気づきが増すとおもしろくなってゆく。それは仕事上にもプラスとなって現れる。この感覚を得られたことは，自分への自信にもつながり，貴重な体験だった。日々の生活の中で思い出すことがある。自分の中で生き続けている。大学の体験前と後では少し違う自分。入学して良かった―今改めて思う。」何と率直に見事に自己変革を語ってくれている。それも，倉庫業や事務の実務の新しさ以上に，人間としての成長，変革，生きることや

仕事への全体的な自信である。(注8)

第19期生の記録集には，各人が受講中に提出した単元Ⅰ，「経済と中小企業」から，単元Ⅴ，「科学技術論」までの5本のレポートと最後の卒業論文の提出，各人計6本の中から，教育委員会が判断した各人にとってより良いレポートか卒業論文が各1篇づつが掲載されている。従って52人の卒業生なので，52本の論文が掲載されている。単元Ⅵ，「人間と教育」は，最後なのでレポートはない。今期は，単元Ⅲ，「経営分析」が2本のみであるが，他は，卒業論文もふくめ，ほとんどが10本づつ掲載されている。

それらの中から，成績優秀で卒業生代表で「答辞」を読んだ鼻和敏生鼻和組常務の「中小企業の求める経営資源とは何か」を取り上げてみたい。鼻和敏生氏は，今日，中小企業はハードな経営資源よりソフトな経営資源，情報やノウハウがより必要になっていると考えている。また，「地域社会の重要な生活基盤の一角を占めている」ので，「今後我々経営者幹部は，その社

資料3

答　　辞

20世紀を締めくくる激動の1990年代を迎え，今日ここに私達同友会大学19期生は，卒業式を迎えることが出来ました。

ただ今は又，ご臨席の皆様から，私供，卒業生に対し，ご懇切なお言葉を頂きまして，誠にありがたく，感謝する次第です。

顧みれば，私達が厳寒の1月に希望と期待に胸をふくらませ入校してから，早くも4カ月の月日が流れました。本日，うち揃って卒業する光栄を得ましたことは，常に理解ある態度でお導き下さった諸先生初め勤務先の上司，同僚，そして同友会事務局の皆様のご協力の賜と，深く感謝致しております。

私達は，中小企業の経営者，あるいは幹部として，日夜激しい時代の波にもまれています。

ともすれば，マンネリ化した妥協の日々を送りがちでありますが，この同友会大学を通じ，知的好奇心に目覚め，貪欲に学ぶ事の喜びを知りました。

ただ単に，一企業の利益のみを追求するのではなく，広く人類的価値を視野に入れた経営や人育てを追求していかなければならないという事を，悟ることが出来ました。

私達にとって，これからの十余年は，新しい時代の扉をどう開いていくか，決しておろそかに過ごせない大事な時期であり，同友会の「自主，民主，連帯」の精神を，全道のすみずみに広げ，この北の大地に，新しい創造を成し，「人間復興」の時代を創りあげていきたいと，決意を固めております。

最後に，皆様方のご健勝と今後の同友会の益々の発展を祈念し，卒業生代表の言葉と致します。

1990年5月14日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第19期生代表
株式会社　鼻和組
鼻　和　敏　生

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第19期生記録集“未来を拓く”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1990年7月，64頁。

会的責任を充分に認識し，そして配慮し，経営政策の改善を図らなけれればならない。」「利益をあげるということは，企業の目的ではなく，企業の存続を可能にする為の力をつける手段であるということを，我々一人ひとりが改めて認識すべきではないだろうか。」と，社会的責任を論じている。経営者幹部の総体的課題として，①企業内部の組織の根本的見直し，②創造性を生み出す企業人の教育体制の確立，③技術革新にふさわしい経営の近代化，の3点を挙げている。さらに人間同志の「心のつながり」や「共に育ち合う」ことを大切にし，物より心を大切にする哲学を持ち，「人間を人間として最大限尊重する」ことを理念とすると論じている。(注9)

(3) 第19期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

1990年5月14日（月）午後6時から，札幌市東区北9条東2丁目，りんゆう会館3階のりんゆうホールで行われた第19期同友会大学卒業式は，西村信同友会大学学長（社員教育委員長，㈱ニシムラ代表取締役副社長）の式辞で始まった。西村学長は，卒業の祝意を述べ，今期52名の卒業生を加え，同友会大学同窓生が800名の大台を超え，同友会運動の財産として今後の発展の基礎との確信を語っている。そして，「作家のゲーテが『ファウスト』の中で，『人間は努力している間は迷うに決まっている』という風な言葉を残しています。つまり，人間は絶えず新たな課題に挑戦しなければならない宿命を持っている」ことを強調した。さらに，教育学者大田堯東大教授の「人間というのは育ちきったという到達点を持たないものだ」と，それに関連し，人間の子ども性が「好奇心・探究心」を意味するとして，「そういう心を今一度確かめて，仕事の上で，また家庭において，皆様のすばらしい人生の実りを期待してご挨拶といたします。皆様，本当におめでとうございました。」と式辞を結んでいる。

次いで，千葉一北海道同友会代表理事（北雄ラッキー㈱会長）が，祝辞を述べた。「私は，人間の能力にはあまり差がないのではないか，といつも口ぐせのように言っております。あるとすれば，決断と行動の差ではないか，これが経営を左右するのだと考えております。」そして，最近は，高度成長のときのように一生懸命やれば伸びる時代ではなく，頭や知恵を使わねばならない時代になってきていて，「知恵というのは勉強しなければ湧いてきません。優秀な先生方から教えていただいたことと，経営者が持っている負けずぎらい，行動力，決断これらを組み合わせれば，中小企業の経営者，幹部として立派に通用するわけです。皆さんは同友会大学で大変苦労されながら勉強されたわけですが，これを一つの絆として，これからますますご健勝でご健闘されることを心よりお祝い申し上げまして，ご挨拶とさせていただきます。」(注10)

さらに，出席した講師3人が祝辞を述べた。まず，多忙のため卒業式には殆ど出席したことのなかった鈴木秀一札幌学院大学教授（北大名誉教授）が，“共に育つ”を原点にと，次のような貴重な祝辞を述べている。「今日は皆さんの卒業のお祝いと同時に，同友会や私のつたない講義を聞いて下さった皆さんにお礼を申し上げたいと思って卒業式に参上した次第です。学

長からお話しがございました大田堯先生は私の恩師でございまして，同友会の方々と知り合いになれて自分の目が開かれたと，常々おっしゃっています。私達は，もちろん“共に育つ”ということを原点にしてるわけですが，今の日本の学校教育は，それを見失うほどいろいろな問題，ゆがみを抱えております。教育学を研究していながら，心せくままにその対応を急いでいるうちに，つい原点を忘れてしまうこともあるわけです。

しかし，中小企業家同友会の方々は，“共に育つ”ということを実践の場で，経済活動と合わせて，あるいは経済活動の一番根幹にあるものとして考えていらっしゃる。そのことに，大田先生は非常に深く感動されていました。皆さんの実践されていることが，人間が抱えている様々な問題を克服していく一番の力になるのではないかと思います。

皆さんのような方々がいらっしゃる会社であれば，“共に育つ”という立場で，どんな困難があっても乗り越えていくような若者に育てて下さるだろうという確信があるので，学生達にも自信をもって勧めることができます。今後も卒業生などがお世話になると思いますが，よろしくお願いいたします。」(注11) 鈴木教授は，恩師の大田堯東大教授が同友会の共育活動に感動して講演や論文執筆で同友会運動に協力している，まさにその原点について，大田教授からの直接の言説を卒業生に伝え，卒業を祝っている。

講師の二人目は，方波見雅夫北大非常勤講師で，「人生五十年といわれた時代には，『親孝行したい時には親はなし』と，よく言われたものですが，人生八十年になってしまったら子供から愛想をつかされ，『親孝行したくなくても親はいる』なんてことになってしまいました。せめてまわりからそんなことを言われないように，いつも頭をフレッシュにしていきいきと生きていたいと思っております。」(注12)

講師の最後の祝辞は，竹田正直北大教授で，「この同友会大学は，ハウツーものではなくて，基礎的なことをじっくり勉強すること」をめざしており，ハウツーものがもてはやされる昨今では，「ある意味では無用の長物といえるかもしれない」とし，四カ月間学び，①基礎的なことを身につけ，②職場や家庭などの尊敬を得たこと，③学んだ人々相互間の大きな友情，④同友会大学同窓生 800 名との絆が生み出されたとした。結びに「『共育』というのは，まず自らが学び続ける，自らを高め続けなければ成り立たないと思います。これからも『共育』の姿勢を貫いて下さい。」と述べた。(注13)

岡村敏之同友会大学同窓会長（ダイヤ冷暖工業㈱社長）が，「皆さんは四カ月前と比べて一まわりも二まわりも大きくなっているはずです。本当の意味で点数がつくのはこれからです。」そして，同窓会の三つの申し合わせ，①同期会をつくり最低年 1 回の同期会開催，②年二回の同窓会研修会への参加，③同友会の講演会や研修会に参加して学ぶ気風を職場に定着させる，を示し，「来年の十周年に向かって，新しいフレッシュな 19 期の皆様方のお力添えを頂きたいと思います。」と今後の学びの展望を示している。(注14)

式辞や祝辞で多くの人が触れているのは，第 1 に，冬季間や決算期の困難な中，週 2 日，夜 3 時間，更にレポート 5 本と卒業論文という厳しい学習を克服したことへの祝意と賞賛。第 2

に，それには職場，家庭，地域の支えがあったこと。第3に，今後，人間として生き，成長するための科学の基礎を学んだこと。第4に，同友会大学の卒業は出発点にすぎないこと。第5に，同期会や同窓会のメンバーなど，かけがいのない絆を得て“共育”の可能性がいっそうひらけてきたこと，である。

第2章　北海道中小企業家同友会第20期同友会大学

⑴　第20期同友会大学の日程と講義概要

第20期同友会大学は，1990年7月6日（金）午後6～9時，札幌市中央区北4条西16丁目第一ビル同友会会議室を会場に開校式を行い，11月9日（金）のりんゆうホールでの卒業式まで同会場を教室にして，開校式を含め30講義が行われた。なお，開校式では，学長挨拶，代表理事祝辞，出席講師の祝辞，社員教育委員の紹介，受講生代表の決意表明，が行われ，ここで式が終了し学長や来賓が退席した。その後，ガイダンス，班編成の発表，性格・職業興味検査が行われるが，受講生代表の決意表明以外の資料は残されていない。

受講生代表の決意表明は，㈱りんゆう観光の芦口由紀氏が行っている。「与えられた学ぶチャンスに，向学心の芽が生え，貴重な講義からは少しでも多くのことを学びとろう，人を知り，企業を知り，北海道を知り，世界までも知ろうという，欲張りな野望さえ抱き，数多くの立派な先輩達を育てた，この同友会大学で学ぶことのできる喜びをかみしめております。様々な環境の変化の中で，グローバルで多角的な視野を持つことの意義はますます大きくなってゆくでしょう。同友会大学の中で，私達がどれだけ学べるかは，今後，自分にとっても企業にとっても大きな影響を与えるに違いありません。」送り出してくれた経営者や同僚，今後学ぶ講師に感謝して決意表明としている。ここには，受講への喜びと学ぶ内容への期待，自分たちの学びの意義などが述べられており，立派な決意表明である。多少の難は，学びが自分と企業にとって触れられているが，地域や社会の今後へも触れて欲しかった。(注15)

講義カリキュラムは，第Ⅰ～第Ⅵ単元の名称は変わらない。但し，第19期の単元構成と講義順は，単元Ⅰ，「経済と中小企業」，単元Ⅱ，「北海道論」，単元Ⅲ，「経営分析」，単元Ⅳ，「経営と法律」，単元Ⅴ，「科学技術論」，単元Ⅵ，「人間と教育」，「総括講義」，となっていて，単元Ⅲ，「経営分析」，単元Ⅳ，「経営と法律」の順序のみ，従来とは入れ替わっていたのが，第20期では，再び元にもどり，単元Ⅲ，「経営と法律」，単元Ⅳ，「経営分析」，となった。

各単元内の構成や講義順は，いくつか変わっている。まず，第19期で種々変更していた**単元Ⅰ，「経済と中小企業」**は，体系化を意識してテーマと講義順を変更している。

第1講義は，前回第2講義の札幌学院大学三好宏一教授の「経済学とは何か～経済学の歴史と現代～」となっている。第2講義は，北大佐々木隆生教授の「現代の世界経済をどうみるか」であり，第3講義は，北大冨森虔児教授「現代日本経済と日本的経営」，二人ともテーマを若干変えている。第4講義は，北大真野脩教授「これからの中小企業の経営戦略」，第5講

義は，札幌大学森杲教授「現代の情勢をどう理解するか～グループ研究⑴～」であり，第４と第５は，順序もテーマも変わっていない。まず，経済学とは何かを講義し，次いで，世界経済と日本経済を論じ，中小企業に特化して論じ，最後に現状について講義と討論を行うという一定の単元の系統化が試みられている。

単元Ⅱ，「北海道論」は，前回の第１講義，日本民族学会田中了会員，第２，武蔵女子短大永井秀夫教授，第３，北大山田定市教授，第４，藤女子大学小笠原克教授，の４人の担当者も夫々のテーマも変化はないが，講義順が前回の第１と第２，第３と第４が入れ変わっている。

単元Ⅲ，「経営と法律」は，全員弁護士の郷路柾記氏，田中燈一氏，向井清利氏である。郷路弁護士と向井弁護士は，テーマも講義順も不変あるが，第２講義は，テーマは同じだが，担当者が変わっている。前回の阿部勝人弁護士「民・商法の基礎知識」のテーマは，そのままで，担当者が田中燈一弁護士になっている。

単元Ⅳ，「経営分析」は，前回の「経営分析」単元Ⅲが，従来の単元Ⅳにもどり，芥川満砂子税理士，藤田時人税理士，池戸俊幸税理士の担当者とテーマ，講義順の変化はない。池戸税理士が第３，第４講義の２回担当も同じである。

単元Ⅴ，「科学技術論」は，前回の第１講義の北大吉田文和助教授「先端技術の功罪」が，北大是永純弘教授「先端技術の社会問題」に変わり，第２講義となっている。今回第１講義は前回の第３講義札幌学院大学田中一教授である。他の３人の講師，北大山本強助教授，北海道東海大学西村弘行教授，北大赤石義紀助教授のテーマは変わっていない。

単元Ⅵ，「人間と教育」は，北海道同友会西谷博明事務局長，北大竹田正直教授，札幌学院大学鈴木秀一教授，北大非常勤講師方波見雅夫講師，北海学園大学後藤啓一教授，㈱共同印刷木野口功社長，の担当者，テーマ，講義順も第19期と変わっていない。

「総括講義」は，従前と同じく北海道同友会大久保尚孝専務理事の担当である。(注16)

⑵　第20期同友会大学の受講生・卒業生の特徴

第20期受講生は，第19期より若干少なく，50名の新受講生と１名の編入，計51名でのスタートとなった。女性は１名である。女性幹部社員の受講増は大きな課題である。

1990年11月９日（金）午後６時からりんゆうホールで卒業式が行われたが，卒業生は，51名の受講生中47名で，卒業率は92.2％と史上第２位の高率である。皆勤賞は25名で，皆勤率は53.2％で，20期中第10位である。感想文のなかに，皆勤を目指しながら仕事の関係で休まざるをえなかった無念さがかなりあったとのことで，授業が７～10月という経営の繁忙期と重なっていることも影響している。

レポートの成績は，64.8点で，20期中第６位と上位である。しかし，最優秀賞も優等賞も該当者はいなかった。努力賞が３名いる。芦口由紀氏（㈱りんゆう観光），竹本忠男氏（タナカ化学㈱課長），田中昌一氏（金井建設工業㈱部長）の３名である。

皆勤賞受賞の卒業生は，阿部俊彦氏（白石機材㈱係長），芦口由紀氏（㈱りんゆう観光），市

資料 4　北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 20 期）

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
開　校　式		
'90 7 月 6 日(金)	◎学長あいさつ，教育委員の紹介，ガイダンス ◎班編成の発表，性格・職業興味検査	
単元Ⅰ　経　済　と　中　小　企　業		
7 月 9 日(月)	◎経済学とは何か ～経済学の歴史と現代～	札幌学院大学 教授　三好　宏一氏
7 月13日(金)	◎現代の世界経済をどうみるか	北海道大学 教授　佐々木隆生氏
7 月18日(水)	◎現代日本経済と日本的経営	北海道大学 教授　富森(ママ)　虔児氏
7 月20日(金)	◎これからの中小企業の経営戦略	北海道大学 教授　眞野　　脩氏
7 月23日(月)	◎現代の情勢をどう理解するか ～グループ研究(1)～	札幌大学 教授　森　　杲氏
単元Ⅱ　北　海　道　論		
7 月27日(金)	◎北海道の近代史から学ぶ	武蔵女子短大 教授　永井　秀夫氏
7 月30日(月)	◎北方少数民族の生き方で考える ～もうひとつの北海道史～	日本民族学会 会員　田中　　了氏
8 月 3 日(金)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教授　小笠原　克氏
8 月 8 日(水)	◎北海道経済の過去・現在・未来	北海道大学 教授　山田　定市氏
単元Ⅲ　経　営　と　法　律		
8 月10日(金)	◎日本国憲法と私たちの課題	弁護士 郷路　征記氏
8 月13日(月)	◎民・商法の基礎知識	弁護士 田中　燈一氏
8 月17日(金)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士 向井　清利氏
8 月20日(月)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士 向井　清利氏
単元Ⅳ　経　営　分　析		
8 月24日(金)	◎経営分析の ABC	税理士 芥川満砂子氏
8 月28日(火)	◎経営分析のすすめ方	税理士 藤田　時人氏

講義時間；18：00～21：00

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
8月31日㈮	◎経営分析の事例研究(1)	税理士 池戸　俊幸氏
9月3日㈪	◎経営分析の事例研究(2) ～グループ研究(2)～	税理士 池戸　俊幸氏
単元Ⅴ　科　学　技　術　論		
9月7日㈮	◎科学と人間 ～自然科学の発展と人間生活～	札幌学院大学 教授　田中　一氏
9月10日㈪	◎先端技術の社会問題	北海道大学 教授　是永　純弘氏
9月14日㈮	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 助教授　山本　強氏
9月17日㈪	◎バイオテクノロジーと北海道の未来	北海道東海大学 教授　西村　弘行氏
9月21日㈮	◎科学技術の発展と人類の課題 ～グループ研究(3)～	北海道大学 助教授　赤石　義紀氏
単元Ⅵ　人　間　と　教　育		
9月25日㈫	◎幹部に求められる現代のマナー	北海道同友会 事務局長　西谷　博明氏
9月28日㈮	◎教育の歴史と本質	北海道大学 教授　竹田　正直氏
10月1日㈪	◎日本の教育と人間の発達 ～現代青年の特徴と成長の可能性～	札幌学院大学 教授　鈴木　秀一氏
10月5日㈮	◎“知恵”ある人間に育つために	北海道大学 非常勤講師　方波見雅夫氏
10月8日㈪	◎現代人の社会心理と組織の生かし方	北海学園大学 教授　後藤　啓一氏
10月12日㈮	◎社会と共に育ちあう企業づくり	㈱共同印刷 社長　木野口　功氏
総括講義		
10月15日㈪	◎中小企業の未来と私たちの課題 ～同友会大学で何を学んだか（グループ討論）～	北海道同友会 専務理事　大久保尚孝氏

※卒論の提出
※卒業式は11月9日㈮

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第20期生記録集“激動を生きる”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1991年1月，4～5頁。

資料5

決 意 表 明

緑萌ゆる北海道の美しい季節に，同友会大学の第20期生として，今，ここに参列することができ，大変な名誉と責任を感じております。

会社の期待にどれだけ応えられるのだろうかというプレッシャーに，打ちのめされそうになりながらも，再び与えられた学ぶチャンスに，向学心の芽が生え，貴重な講義からは少しでも多くのことを学びとろう，人を知り，企業を知り，北海道を知り，日本を知り，世界までも知ろうという，欲ばりな野望さえ抱き，数多くの立派な先輩達を育てた，この同友会大学で学ぶことのできる喜びをかみしめております。

様々な環境の変化の中で，グローバルで多角的な視野を持つことの意義はますます大きくなってゆくでしょう。同友会大学の中で，私達がどれだけ学べるかは，今後，自分にとっても企業にとっても大きな影響を与えるに違いありません。

本日より，同友会大学第20期生として4ヵ月間，共に学びあいながら努力して参ります。講師の皆様，同友会の皆様，会社の経営者や同僚に対し，この機会を与えて下さったことに感謝申し上げ，引き続きご指導とご理解を賜りますようお願い申し上げます。同友会大学の名に恥じないよう，日々研鑽を積み，心の目を覚醒させるよう努力することを決意し，ここに表明致します。

1990年7月6日

同友会大学第20期生
代表　㈱りんゆう観光
芦　口　由　紀

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第20期生記録集“激動を生きる”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1991年1月，9頁。

来政継氏（㈱樽石副部長），伊藤三郎氏（㈱宅装サービス），臼木篤氏（札共建設㈱専務）大沢克彦氏（東海産業㈱取締役），奥田照男氏（㈲共栄ファニチャー取締役），風間則昭氏（㈱三好商会係長），角矢浩治氏（秋津道路㈱次長），岸梅博氏㈱どうきゅう課長），木田一貴氏（北海道共石油送㈱），沓沢安男氏（ベル食品㈱），熊谷優範氏（北幹警備保障㈱次長），渋谷一氏（㈱第一エンヂニアリング），白藤与史雄（オリーブ情報処理サービス㈱），田川彰一氏（浅川通信㈱主任），田中昌一氏（金井建設工業㈱部長），千葉修氏（㈱どうきゅう課長），西野利一氏（㈱宅装サービス），野田猪千世氏（ベル食品㈱），平野幹氏（㈱和光），本間徹氏（ベル食品㈱），柳田政二氏（華園電子㈱課長），山岸利弘氏（㈱サンコー主任），渡邊孝氏（㈱興福産業社長），の25名である。

『同友会大学第20期生記録集“激動を生きる”』には，卒業生の第1～第5単元のレポートと卒業論文計6篇の論稿の内，各1篇が掲載されている。それらの中から注目すべきものを若干取り上げてみたい。単元Ⅰの，松木新氏（㈱共同印刷課長）の「経済民主主義への道」は，アメリカ経済の財政と貿易の双子の赤字を，ソ連・東欧の全般的危機など世界経済の分析で示し，更に，日本経済について，軍事費への寄生，多国籍企業化，マネーゲーム化の危機を指摘

した。この「危機打開の方向は，大企業や多国籍企業にたいする民主的規制，経済民主主義の路線以外にない。」と指摘。結びに，「アイヌのひとびとは，『富を貯めるとは各個人の蔵にモノをためることではなく，大地を豊穣に，自然を豊かにし，自然の中に富を貯めることだ』」と述べ，昨年 2019 年，はじめて日本の法律にアイヌが「先住民族」と明記され，本年 2020 年 7 月 12 日「ウポポイ」が開設される方向を 30 年まえに見通していたとも言える。(注17)

単元Ⅱ，「北海道論」では，大清水正幸氏（写真廃液処理工業㈱工場長）の「北海道先住民族史」は，「和人が北海道に移住してきたときに，先住民族は和人に蝦夷とよばれていたアイヌであった」が，「いくたびかのかの戦いと謀略がはじまる」。その後の北海道開拓史が，屯田兵，移住者，囚人，朝鮮人労働者に犠牲を強いてきたことを論じている。(注18)

単元Ⅲ，「経営と法律」の角矢浩治氏（秋津道路㈱次長）の「日本国憲法の諸原理」では，「国民主義，平和主義，基本的人権尊重の諸原理で貫かれるばかりでなく，生存的基本権規定，違憲立法審査権，地方自治の保障など明治憲法になかった重要な諸条項をもとりいれられた民主主義的な憲法である。」更に，擁護論と改正論を取り上げ，「自然権」を述べ，また，九条の戦争放棄を論じ，「世界の圧倒的多数の国は，水爆戦争が人類皆殺しの戦争だということに気づいて真剣に国際平和を願っている」と結んでいる。(注19)

単元Ⅳの「経営分析」は，与えられた財政資料の分析である。単元Ⅴの「科学技術論」の宮下秀樹氏（㈱サンコー主任）は，「生産技術と環境保全技術の開発」のテーマで，地球環境の悪化の要因を分析し，炭酸ガスやフロンガスの問題をとりあげ，「生産を拡大しながら環境を保全する」技術の重要性を指摘する。(注20)

「卒業論文」の中村款氏（㈱日本除雪機製作所係長）「同友会大学の意義を論ずる」では，受講した講義は，第 1 に，「興味深くもあり，新鮮であった」，第 2 に，「自分の考えを文章にまとめる作業は日常あまり体験する機会がなかったので参考になった」，第 3 に，「ハウツー物的な表面的教育ではなく，物事の見方，本質のとらえ方を自分に考えさせる教育であった」と述べている。(注21)

カリキュラムでは，予め，「グループ研究」が，単元Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ，と 3 回予定されているが，これについて本間徹氏（ベル食品㈱）は，こんなエピソードを書いている。「私にとって大学は苦労の日々でした。レポートの提出でさえ大変なのに，皆さんの前に出て発表するのが，一番辛かった。教壇の前に立つと緊張のあまり，思うように全く喋れませんでした。それを私は 2 回もやりました。その訳は…私が素朴である為。そして，私の班は，アルコールが入らなければ，人前で喋れないというわがままな人が多い為…。」(注22)

そのほか，小樽から通学して皆勤賞の市来政継氏（㈱樽石副部長）は，「夜の講義の為，軽く夕食をとり，帰宅してから更に夕食を食べる日が続いたせいか，体重が 3kg 増えてしまいました」という。奈良聡氏（ケイ・アイ・シー㈱）は，初回講義が会社のゴルフコンペの後で，講義中，コックリコックリ，「気が付いて，何度も何度も姿勢を正したのですが…，その後の講義は，真面目にやったつもりです。」風邪で皆勤賞を逃した三浦正史氏（タナカ化学㈱

係長）は，「高熱が続き，『皆勤賞』と『レポートの題名』が夢の中まで現れ」たという。(注23)

⑶ 第20期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

第20期同友会大学の卒業式は，1990年11月9日（金）午後6時から，札幌市東区北9条東2丁目，りんゆう会館3階りんゆうホールで行われた。

西村信同友会大学学長（社員教育委員長，㈱ニシムラ代表取締役副社長）は，次のような式辞を述べた。「第20期の皆様，ご卒業本当におめでとうございます。…この四カ月間，国際的にも世界を揺るがす大きな事件もございました。そんな歴史の経過の中にありながら，皆様方は一つの目標を達成なさいました。…この同友会大学で得たものは，自信や充足感のみならず，『積極的に謙虚に学ぶ』ことも，その一つではないでしょうか。私の好きな作家に，鶴田知也という人がいます。少し前に亡くなられましたが，彼の文学碑には，作品の一文――『不遜なれば未来の悉くを失う』と，刻まれています。是非この意味を噛みしめながら，あらゆるものに知的好奇心を振り向けて学んでいっていただきたいと思います。最後に皆様方のご健康と，皆様方の企業がこの地域の為に，又更には北海道の為に，日本の為に，全地球の為に，益々発展しその楚となっていただきますようお祈り申し上げます。」行き届いた，視野を広く持ち，今後も学び続ける為にふさわしい式辞である。「積極的に」「謙虚に」は同友会経営者の良き伝統である。(注24)

今回は，同友会代表理事の挨拶はなく，出席講師4人の祝辞が続いた。北大是永純弘教授（単元Ⅲ科学技術論）は，「最近，昭和34年生まれ以降の人だけが残った人口集団になった時，日本人の平均寿命は41歳になるだろうという物騒な見解が発表されました。経済大国日本の食生活，文化生活の貧困さが原因だというのです。…卒業とはこれから本格的に研究が始まることです。この大学で修められた理論や知識をこれからの仕事，日常生活の面でも十二分に活用し，一層の発展をなさいますよう心よりお願いとお祈りを申し上げます。」次いで，北大竹田正直教授は，外国の教育科学アカデミーとの交流に触れ，同友会大学は世界的課題となっている生涯教育の「素晴らしい見本になる」とし，同友会大学で4カ月間行ってきた「聞く，読む，書く，仲間と交流するということは人間にとって大切な行為です。皆様方は，この素晴らしい体験を今後とも継続なさって，ますます自らの視野を広げより豊かな発展をなさいますよう，お願い申し上げます。」と述べた。

札幌学院大学鈴木秀一教授は，同友会の一番良い点は，経営者や幹部が様々に学び合うつながりをもてる点で，「同友会大学の同期のつながりというのは，ひときわ強いのではないでしょうか。」今後，会社に新人が入ってきたときに，中には，「今の学校教育の仕組みの中で心を貧しくさせられたり，あるいは，自信をなくすような状況に置かれたりしながら入ってくる人も多いことと思います。皆さん方は，大学での経験を生かして，又は，同期生の知恵をお借りして，何とか彼らの力にならなくてはなりません。そして，更には，この人たちの心を豊かにし，元気を取り戻させ，新しい未来を皆さん方と共に作っていくことができるような人に育

てていかなければなりません。ですから皆さん，どうぞ，この同期生のつながりを大切になさって下さい。」と学校教育との関連を期待している。

武蔵女子短大永井秀夫教授は，近頃の学生は講義中によく眠るが，同友会大学の「皆さんのように真剣に聞いて下さると，感激してつい講義にも熱が入ってまいります。…特に，『歴史的に見た北海道論』などというと，すぐに役立つものではありません。しかし今，日本全体が，そして北海道も国際化しております。日本の中でも，他の地域との交流が益々濃くなってきていますので，北海道を知ることは自分を知ることにもつながるのではないかと思うのです。…今後の健闘を期待致します。」と，自分を知る意義を示した。

柏崎俊雄同友会大学同窓会代表（第2期卒業生，アイ・ティ・エス㈱社長）が，「同窓会として，40数名の人達を仲間にできたことは，新しい教師を迎えたことでもあります。同窓会

資料6

答　　辞

本日，ここに私達は，同友会大学第20期生として，晴れて卒業式を迎えることになりました。思えば7月，まだ半袖のＹシャツを着て，汗を拭きながら熱心に講義をしてくれる諸先生方から，多くのことを学び，一単元ごとにレポートを提出しているうちにいつの間にか長袖のＹシャツを着ていて，最後の講義を受けていました。この4カ月間は，私達のこれからの人生にとって貴重で，又想い出に残る4カ月であったように思います。

もし同友会大学に入学していなければ，90年代の大きな第一歩を，ともすれば，仕事におわれ，人生において最も大切な「感動」を味わうこともなく，単調な日々を送っていたかも知れません。私達は，この4カ月間，人間が人間らしく生きるとはどんなことか，同友会の「自主・民主・連帯」の精神とは何かを学び，21世紀に向けて私達が何をしなければならないかを，胸に秘めて新しい第一歩を踏み出すことができたことを深く感謝しております。

この同友会大学を受講しようとした動機は，各自それぞれ違いました。自ら進んで参加した者，会社の方針で参加した者。しかし，いま卒業生の心は一つと確信しています。

「共に学び共に育つ」の理念を生かし，中小企業の発展と地域社会との良好な関係を築き，そして中小企業を新しい時代にふさわしい教育の場，「頼れる学校」にして行くことに全力を尽くすということです。

最後に，ご臨席の皆様の心暖まるご祝辞，熱心にご講義して下さった諸先生方，経営者の皆様，同友会事務局の皆様，そして理解ある応援をして頂いた同僚の皆様に卒業という感動を送って頂いたことに，深く感謝申し上げると共に，今後尚一層のご指導，ご鞭撻をお願いし，卒業生代表の言葉と致します。

1990年11月9日

北海道中小企業家同友会
同友会大学20期生代表
タナカ化学㈱
竹　本　忠　男

出典：西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第20期生記録集“激動を生きる”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1991年1月，62頁。

は，自分を変え，人間として大きくなる場です。皆さん，是非この機会をこれからの生活に，仕事に大いに役立てていただきたいと思います。」と同窓会を人間成長の場として位置づけている。(注25)

鈴木秀一教授が同友会大学卒業生に期待している，今の学校教育でいじめや不登校になり「心を貧しくさせられた」若者の教育は，本来，学校教育の課題であり，期待は筋違いでないかとの意見があるかもしれない。鈴木教授自身，そのことは充分理解し，一人も落ちこぼれを作らない教授学の研究と実証実験を多くの小中学校，高校と連携して精力的に誠実に行って全国的に注目される高い研究成果と授業プランを提示してきているし，北大名誉教授になってからも不登校だった児童・生徒を，自由な環境の中で，自由な学園で“共育”することに全力をあげて来た。この活動に，北海道同友会の沢山の経営者が理解を示し支援してきたが，それらの反映もあって，北海道同友会は，共同求人活動でより優れた人材の採用に努力するだけでなく，北海道の全ての児童・生徒，学生が立派に育つようにと，多くの市町村教育委員会に積極的に協力して教育委員や教育委員長をひきうけてきている。

おわりに

第19期受講生59名，および，第20期受講生51名，とくに59名は多い受講生数であるし，石狩市，千歳市，岩見沢市（2名），江別市，苫小牧市（2名），岩内町，三笠市，上川町，倶知安町，恵庭市，と12名もの札幌市外からの参加は初めてである。

このような同友会大学への期待の高まりの背景には，1969年11月17日の中小企業家同友会全国協議会創立から，5日後，1969年11月22日に北海道中小企業家同友会が結成されて，1989年11月22日に創立20周年を迎えた北海道同友会が，1989年から1990年にかけて種々の創立20周年記念行事を企画，実施し，その一つに，会員拡大5,200名を目標にし，全道的に大きな盛り上がりを示した事を反映している。

記念行事は，山内幹旺企画運営委員長（㈱札幌白衣社長）を中心に次の4事業を企画，実施した。①機関誌『北海道同友』創立20周年記念号の発刊，②『共に育つ』の著者による「共育講演会」の全道的開催，③「海外研修会」企画，④創立20周年を5,200社会員で迎える，であった。(注26)

『北海道同友』記念特集号（第37号）は，1989年9月に発刊され，「共に育つ」教育講演会は，札幌サンプラザで500名の参加で愛知県立大学文学部山田正敏教授が講演し，全道的にスタートした。(注27)

1985年以来，毎年行われてきた道予算編成前の知事との意見交換も，20周年の1989年10月27日には，横路知事，副知事，出納帳，関係部長と，北海道同友会からは三浦，石山，関口各代表理事，大久保専務理事，山崎常任理事・政策委員長が出席して意見交換がおこなわれた。同友会から，第1に北海道では若手人材問題が深刻なので，行政，学校，企業，関係団体

からなる「人材問題懇談会」の発足を要望し実現した。第2に交通，第3に経済の要望もあったが，人材問題が第1の要望であったことは注目に値する。(注28)

会員拡大では，11月22日の20周年までに5,200社名は実現されなかったが5,105社名となり，引き続き努力し，1990年8月には，5,133社名（内札幌支部2,049社名）と拡大は続いていた。その後，30年かけて，昨年2019年11月22日の創立50周年までに6,000社名を突破したのである。一定水準以上の拡大は，一層大変なものであるが，それにしても，20周年記念までの5,105社名は実に偉業と言える。勿論，全国都道府県同友会で際立って第1位の加盟数である。(注29)

筆者は，「共育」の概念を同友会大学の活動と関連付けて分析し，次のような「共育」構造を仮設した。1つは，「直接的共育活動」と名付ける同友会大学内部での共育活動である。これには，第1に，講師と受講生との間の共育活動で，圧倒的には講師が教える活動であるが，受講生から講師が学ぶ活動もある。第2は，受講生同士の相互共育活動であり，授業中のみならず授業外での相互活動もある。第3は，学長，社員教育委員会，代表理事，事務局と講師や受講生相互の共育活動である。2つは，「間接的共育活動」と名付ける同友会大学の外部での共育活動である。これには，第4に，受講生を送り出している企業での共育活動があり，第5は，受講生の家庭での共育活動であり，第6に，卒業後，全員が参加する同窓会や地域での共育活動がある。(注30)

第1の講師と受講生の共育活動については，圧倒的に講師が教え受講生が学ぶ活動である。第19期では，鈴木教授が，大田堯東大名誉教授が同友会の方たちが“共に育つ”実践を経済活動とあわせて，その根幹としていることに「非常に深く感動されている」と紹介し，一般的，間接的だが講師の学びを示している。竹田教授は第20期で，「同友会大学はすでに実践されている生涯教育として，とても素晴らしい見本になる」と広い視野での学びを述べた。

第2は，受講生同士の相互共育活動は，多くの事例が見られた。菅原堅二氏（北洋造園㈱主任）は，「私は班の皆様から，多くの物をいただけた様に思います。笑顔，和やか話し方，人をまとめる力，相手を思いやる心，私よりもずっとずっとすてきな人たちでした。」(注31) 坂本美智子氏（新電電サン㈱）は，「経営分析のレポートの時，同じグループの何人かにFAXで，大変お世話になった。人にこんなにやさしく，思いやりをもてる人がいたなんて感激しています。忘れられない人々です。」(注32)

第3は，学長，社員教育委員会，代表理事，事務局と講師や受講生相互の共育活動である。西谷博明事務局長は，社員教育委員会のまとめを第19期卒業式で発表のあと，「五感をフルに動員して自らの頭で真理を見極める力を養い，人間を大事にし，人間の尊厳を傷つけようとするものに心の底から怒りを燃やし，いつもアテにされる人間に育ち合うことこそ，私たちが自主，民主，連帯の精神を自ら体現していく道だと思います。」(注33)

第4に，受講生を送り出している企業での共育活動は，特段述べることはない。

第5は，受講生の家庭での共育活動であり，石川裕一氏（札共建設㈱課長）は，「私には2

歳半と１歳の男の子が二人いるのですが，上の子は最初のうちは大学にでかける時は泣いていましたが，数回ののちには『お父さん今日はお勉強の日？』などと聞くようになりました。」(注34)

第６に，卒業後，全員が参加する同窓会や地域での共育活動がある。第19期生の６人の世話人の一人，宮田祐吉氏（東海産業㈱社長）は，「19期の同期会は，今後の活動を受講中の班編成を基にした６グループが各グループごとに活発に行い，その活動を中心にして，同期会全体の開催は年２回とします。」と述べ，６月21日の23名での第１回同期会に続き，第２回を10月に行う準備をしている。着実な取り組みである。(注35)

全体的には，第２の受講生同士の相互共育活動は，多くの事例が見られたし，講師からの将来の新入社員共育への強い期待も示された。しかし，他の項目については，事例が少なかったと言える。

注

（注１）中小企業家同友会全国協議会（略称，中同協）発行『中小企業家しんぶん』，第1510号，2020年６月５日，１面。なお，新型コロナウイルス感染者数等は，『朝日新聞』，2020年８月１日（土），朝刊，９，24，27面参照。

（注２）前掲同『中小企業家しんぶん』，第1510号，３～14頁。

（注３）西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第19期生記録集“未来を拓く”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1990年７月，４～５頁。末尾の「肩書は講義当時」は，「肩書きは講義企画当時」が正しい。

（注４）長井正人「決意表明」，前掲同，９頁。

（注５）北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第19期），前掲同，４～５頁。

（注６）小林正行「夜汽車にゆられて」，前掲同，34頁。

（注７）西谷博明「21世紀を新しい人間復興の時代に」，前掲同，２頁。

（注８）堤千春，「存在し，生き続ける羅針盤になった大学」。北海道中小企業家同友会『同友会大学同窓会ニュース』，第12号，1990年９月10日，６頁。堤千春さんは，ユーモアのセンスもあり，「社長曰く，『同友会大学で様々な話題に触れて，私の言葉の理解につなげて欲しい。また，良い人脈作りも大切。女性が少ないのはメリットかも…。そうだ！　男性が多いから，ウーム，今年はうまい酒をのましてもらえるよう期待してるョ！』―社長，うまい酒のご期待に応えられず，スミマセン!!!」と語っている。堤千春，『同友会大学第19期生記録集“未来を拓く”』，前掲，43頁。

（注９）鼻和敏生，「中小企業の求める経営資源とは何か」，前掲同，61頁。

（注10）千葉一，「知恵をもって決断・行動を」，前掲同，10頁。西村信学長式辞は１頁。

（注11）鈴木秀一，「“共に育つ”こそ原点」，前掲同。貴重な内容なので全文を引用した。

（注12）方波見雅夫，「いつまでもいきいきと」，前掲同，11頁。

（注13）竹田正直，「“無用の長物”の大切さ」，前掲同。

（注14）岡村敏之，「点数がつくのはこれから」，前掲同，12頁。

（注15）芦口由紀，「決意表明」，西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第20期生記録集“激動を生きる”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会，1991年１月，９頁。

（注16）前掲同，４～５頁。

（注 17）松木新，「経済民主主義への道」，前掲同，22～23 頁。
（注 18）大清水正幸，「北海道先住民族史」，前掲同，24～25 頁。
（注 19）角矢浩治，「日本国憲法の諸原理」，前掲同，39 頁。
（注 20）宮下秀樹，「生産技術と環境保全技術の開発」，前掲同，47 頁。
（注 21）中村款，「同友会大学の意義を論ずる」，前掲同，55 頁。
（注 22）本間徹，「宴の席ではよろしく，五班の皆さん」，前掲同，16 頁。
（注 23）前掲同，40，48，51 頁。
（注 24）西村信，「不遜なれば未来の悉くを失う」，前掲同，1 頁。
（注 25）是永純弘，「職場で理論の実践を」，竹田正直，「素晴らしい体験を世界に広げて」，鈴木秀一，「同期生のつながりを大切に」，永井秀夫，「答えはこれから」，柏崎俊雄，「卒業こそ自己変革の機会」，前掲同，10～12 頁。
（注 26）北海道中小企業家同友会，『中小企業家しんぶん，北海道版』，第 3 号，1989（平成元）8 月 25 日，1 面。
（注 27）『中小企業家しんぶん，北海道版』，第 5 号，1989（平成元）10 月 25 日，1 面。
（注 28）『中小企業家しんぶん，北海道版』，第 6 号，1989（平成元）11 月 25 日，1 面。
（注 29）同上，第 7 号，1990 年 1 月 25 日，1 面，及び，同上，第 14 号，1990 年 8 月 25 日，1 面。なお，記念事業の「海外研修会」は，1990 年 10 月 1 日から，20 名で，ドイツ，オーストリア，フランスの 8 都市，12 日間の企業経営，歴史，文化，街づくり研修，見学の旅であった（同上，第 17 号，1990 年 11 月 25 日，1 面）。また，第 59 期生には苫小牧から 2 名参加したが，苫小牧での創立 20 周年記念行事は，1990 年 12 月 13 日に，苫小牧の夕焼けとナナカマドの「深紅」にかけて，日本のフラメンコダンス第 1 人者「長嶺ヤス子ロック・フラメンコ」ディナーショーを行い，220 名が参加し，「深紅」の衣装で，「体の中から湧き出す情熱を表情豊かに表現する長嶺ヤス子さんのステージに魅了されるとともに，街づくり・地域の活性化への意欲を奮い立たされているようでした」と報じられており，2 名の受講生を送った苫小牧同友会には熱気があった。（同上，第 17 号，4 面）
（注 30）竹田正直「集団主義教育の立場と今日的観点」，『ソビエト教育科学』第 23 号，1964 年 12 月 25 日刊，128～133 頁。竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育⑽」，北海学園大学開発研究所『開発論集』，第 104 号，2019 年 9 月，17～37 頁。
（注 31）菅原堅二，「すてきなプレゼント」，『同友会大学第 19 期生記録集“未来を拓く”』，18 頁。
（注 32）前掲同，25 頁。
（注 33）前掲同，2 頁。
（注 34）前掲同，15 頁。
（注 35）北海道中小企業家同友会『同友会大学同窓会ニュース』，第 12 号，1990 年 9 月 10 日，8 頁。